

南京事件と新聞報道

記者たちは何を書き、 何を書かなかったか

じょうまる よういち
講師：上丸 洋一さん

ジャーナリスト
元朝日新聞編集委員



1937(昭和12)年12月、日本軍は中国・南京に侵攻し、多数の捕虜や市民を虐殺したうえ、掠奪、放火、強姦などの戦争犯罪を引き起こした。南京大虐殺事件である。

世界史に記録されるこの事件を当時の日本の新聞はどう報じたのか。講師は約80紙を読み通し、何が書かれ、何が書かなかったかを分析した。その結果、何がわかったか。

日本社会には「事件はなかった」と主張する勢力が一部に存在する。そうした主張が、明らかな間違いであることについても解説する。

南京事件から88年

(写真上)南京入場式を伝える「東京朝日新聞」(1937年12月18日付) / (写真下)上丸洋一さんの著書『南京事件と新聞報道』。第67回(2024年)のJCJ(日本ジャーナリスト会議)賞を受賞した

第81回 (2025年)

埼玉・市民ジャーナリズム講座

12/13

sat

午前10時～正午

下落合コミセン

第2集会室

定員39人、予約制

上丸 洋一



ジャーナリスト。1978年朝日新聞入社。オビニオン編集長、「論座」編集長、編集委員を務め、

2020年退社。著書に『新聞と憲法9条ー「自衛」という難題』『原発とメディアー新聞ジャーナリズム2度目の敗北』『「諸君!」「正論」の研究ー保守言論はどう変容してきたか』など。個人として新聞労連ジャーナリズム大賞、平和・協同ジャーナリスト基金奨励賞、取材班のメンバーとして科学ジャーナリスト大賞、石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞などを受賞。1955年岐阜県高山市生まれ。

申込み & 問合せ

090-6190-4634(持ち)

FAX 048-798-7634

saitamashiminj@gmail.com



← 申込みフォーム

参加費:800円

※学生、障害者は半額

※オンライン視聴も出来ます

埼玉・市民ジャーナリズム講座

埼玉県には古くから独自の歴史と文化があります。埼玉がよりいっそう活性化、発展するためには地域に

根ざした多様な「市民に開かれたメディア」の存在と活躍が不可欠です。いま一度、多くのみなさんと、ジャーナリズム、メディアリテラシー、地域文化の育成などの課題を、この「埼玉・市民ジャーナリズム講座」の場を通して共に考え、情報発信していきたいと考えています。この企画は地元・地方紙

「埼玉新聞」の紙面協力のもと2014年から取り組んでいます。主催:埼玉・市民ジャーナリズム講座実行委員会(埼玉新聞サポーターズクラブ/

日本機関紙協会埼玉本部/NPO法人埼玉情報センター/さきたま新聞 NPOくまがや有志) 協力:SAITAMA 共同かわらばん/JCJ 埼玉支部